

病気になりたい人の心のメカニズム

身体の不調を訴える人には、病の人と病気の人2タイプがあります。

病の方は適切なアプローチで回復していきますが、病気の方は気まで持っていかれている状態なので、回復しません。こういう人たちを「病気になりたい人」と私たちは呼んでいます。病気である事が快の状態だと潜在意識が認識しているのです。

そのメカニズムを解説します。

心臓の動きや血流、ホルモン、胃液を出したり腓液を出したりするような無意識下で行われていることは潜在意識がコントロールしています。

潜在意識と顕在意識は互いに影響しあっているため、顕在意識で考えていることや顕在意識下で入ってきた情報が潜在意識に影響します。

身体の不調を訴えた時に、周囲の優しい対応を脳が「快」と捉えた場合、不調を繰り返す原因になります。

なので、みん天ではスタッフが体調を崩したときは非常に冷たい対応をとります。

子どもが熱を出したときなどにやさしくすると、体調不良を逃げ道に使うようになります。そうすると慢性的な状態に移行しかねないので、いつかの時点で突き放してください。

風邪などの熱は緊急事態になると下がります。母親が寝込んでいる時に、子どもが熱を出すと、母親は元気になるのが良い例です。

潜在意識下で正常に指令がだされていれば、人間には恒常性維持があるので、2年で身体全体の細胞が正常に入れ替わります。たとえ変な細胞があったとしても、次は正常な細胞を作り出すので、ずっと異常な状態でい続けることはありません。

変な細胞や変な状態を作り続けるのは、潜在意識下でそのように指令を出してコントロールしているからです。

何故変な指令を出すのか。

病の状態を「快」と認知したままだからです。

潜在意識に変な指令を出させないようにさせるには、病の状態が徹底的に「不快」だと脳に覚え込ませることです。

病気になりたい人の見極め方

- いつも自分や家族の体調が気になり、不調を探しているような人。
- 自分が回復したことにフォーカスをせず、病院や治療院に「今度はここが痛くなりました」と何度も通う人。

- 本人にとって何か不都合な事が起きた時、体調を理由に逃げる人。
- アレルギー等が治らない人
- 好転反応に感謝出来ない人、悪化したと思う人

面白いのは、娘の治療院に来る患者さんのうち、何か症状がぶり返しても「好転反応ですね。悪いものが出てるんですね！やったやった！」と単純に喜ぶ人は治りが早いです。反対に、症状がぶり返したとき「悪化しました。どうしたら良いですか。」と聞いてくる人は、本当に悪化していきます。皆さんも周囲の人たちを見て、心配性の人は病気が治りにくいのが思い当たるのではないのでしょうか。

話は少し脱線しますが、これって、幸、不幸も同じです。何か悪い事が起こっても、良い事が起こる兆しだ！やったやった！と喜べば、本当に幸運がやってきます。